

集めよ!ジュニア会員!!

編集にあたって

重野 寛 | 慶應義塾大学 坊農真弓 | 国立情報学研究所・総合研究大学院大学
櫛 惇志 | (株) デンソーアイティラボラトリ

高度な情報処理を軸として社会が大きく変化してきており、小・中学生を含む若い世代にどのような情報処理に関する知識や理解、実践を広めるかが重要になってきている。本会においても若い世代に対して学会が果たすべき役割については大きな課題である。本会は学生会員も受け入れているが、さらに若い世代（大学3年生以下）を会員として受け入れるべきか、そのような世代に学会がどのような価値を提供できるのか、そして実際に何を提供するのかについては、その是非も含めさまざまな議論が行われてきた。本小特集では、ジュニア会員制度の設立の経緯や意義、若い世代に向けた学会の取り組みを紹介したい。

本会では、2015年度に小学生から大学3年生までが入会できる「ジュニア会員制度」を設け、それまでよりも若い世代も会員として受け入れ、積極的にサービスを展開する方向に舵を切った。ジュニア会員は年々増加しており、2019年3月時点で1,642名に達している。

ジュニア会員はしばしば学生会員と混同されるが、学生会員は基本的に大学4年生以上の学生が対象であり、それとは異なる層を対象とした新しい会員種別である。また、その名称から小・中学生が想像しがちであるが、大学3年生までの広い年代をカバーしており、一口に「ジュニア向け」と言っても、実

際の対象はさまざまであることに注意を要する。

ジュニア会員に向けたイベント企画やコンテンツなどの学会サービスについては、これまでとは異なるものとして考える必要がある。正会員や学生会員は情報処理にかかわる研究、開発、実務に携わる、いわばプロフェッショナルやその予備軍と言えるが、ジュニア会員はもっと一般的な興味を持つ層が中心である。ジュニア会員は必ずしも、学術発表や最新学術動向の共有などの、いわゆる従来の学会活動を期待しているわけではない（もちろん、そのような活動に興味を持つ高校生や大学生もいるとは思いますが）。ジュニアを惹きつけるには、若年になればなるほど、むしろ、これまでとは異なるサービスや活動を通して、学会側から積極的にアプローチし、情報処理技術の楽しさや魅力を伝え、関心を持ってもらう必要がある。同時にジュニア向けの学会サービスが、豊かな学術の世界へ、そして本格的な学会活動へ繋がるものとなっていることも重要だろう。

学会における若い世代向けのサービスは、有志の個人やグループの活動に依存してきた面が小さくないが、ジュニア会員制度の設立を契機として、学会全体として議論され、さらに組織化されるようになってきている。

本小特集では、ジュニア会員制度の設立の経緯や意義とともに、現在学会で実施されている企画やイ



イベント，そしてこれから展開される予定の企画やイベントを多方面から紹介する。

「学生無料トライアル会員，そして，ジュニア会員へ」（喜連川優氏）では，ジュニア会員制度の設立の経緯や設立の狙いについて，当時の本会会長のご経験をもとに説明をいただき，学会の役割について議論いただく。

「ジュニア会員から始まる学会活動の新たなステージ—なぜいまジュニア会員なのか—」（西尾章治郎氏）では，前会長の立場から学会の役割や方向性，ジュニア会員の意義を議論いただく。

「今こそ花開く，熱き想い—情報処理教育委員会の活動とその歴史—」（美馬のゆり氏）では，初等中等教育から高等教育，そして社会人のための資格制度まで，教育現場に直接アプローチする本会教育委員会での議論や企画を紹介していただく。

「IPJSJ-ONE がジュニア会員を惹きつけるわけ」（五十嵐悠紀氏）では，ジュニア会員を含む多くの人々を惹きつけている人気イベント IPJSJ-ONE の魅力を委員長の経験から解説していただく。

「ジュニア会員と学会のインタフェースとしての会誌—裾野を広げることの重要性—」（稲見昌彦氏，構成：中田真城子氏）では，ジュニア会員に無料

で届けられる会誌が小・中学生の会員にも読まれており，そのような会誌の在り方が持つ，学会や社会に対する意義について説明いただく。会誌編集長の立場から，ジュニア会員を新たなターゲットの1つとした会誌デザインについて議論する。

「『先生，質問です！』が目指すこと」（榎惇志氏）では，本会新世代企画委員会発の会誌企画「先生，質問です！」立ち上げの経緯や会誌掲載までの流れ，SNS を通じた質問受付・情報発信，本会第 81 回全国大会にて開催された公開「先生，質問です！」，今後の展望などについて報告をいただく。

「Exciting Coding! Junior のこれまでとこれから」（伊藤一成氏，吉田葵氏，稲葉利江子氏）では，ジュニア会員を対象としたプログラミング・ワークショップ Exciting Coding! Junior の設計方針，ファシリテーション研修等のデザイン，ジュニア会員拡充に与える影響について報告をいただく。

「ジュニア会員体験記」（太田智美氏，畑田裕二氏）では，ジュニア会員を経て，その後正会員となった方々へのインタビューから，ジュニア会員での体験と今後への期待を探る。

(2019年6月28日)